

25日 水曜

エペソ



4:25 ですから、あなたがたは偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい。私たちは互いに、からだの一部分なのです。

4:26 怒っても、罪を犯してはなりません。憤ったままで日が暮れるようであってはけません。

4:27 悪魔に機会を与えないようにしなさい。

4:28 盗みをしている者は、もう盗んではいけません。むしろ、困っている人に分け与えるため、自分の手で正しい仕事をし、労苦して働きなさい。

4:29 悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。むしろ、必要なときに、人の成長に役立つことばを語り、聞く人に恵みを与えなさい。

4:30 神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。

4:31 無慈悲、憤り、怒り、怒号、ののしりなどを、一切の悪意とともに、すべて捨て去りなさい。

4:32 互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。

私たちクリスチャンは、みな教会に属していますので、キリストを頭とする体の器官です。それで、私たちは自分のために存在して生きているのではなく、互いのために存在して生きているのです。まさに「私たちはからだの一部分として互いにそれぞれのもの」だということです。

教会に集う兄弟姉妹のために自分は生きているのだということを、しっかりと自覚して考え行動しましょう。またこれからからだに属する人々、すなわ

ち救われるべき人々のためにも、自分は何ができるか何をすべきか、考えましょう。

怒りにも正しい動機から来るものがありますし、心の反応として避けられないものもあるでしょう。しかしいつまでも怒りを納めないでいると、それは悪魔に用いられてしまいます。ユダヤでは日没までが一日を考えられていましたから、翌日には怒りを忘れなさいという意味です。

現代では盗みの方法も多様化していますが、本来自分に権利がないのに自分のために使ってしまったり、それは盗みということになるでしょう。また借りたものを返さないのも、結果的に盗みと同じことになります。「もう盗んではいけません」という言葉に、未来志向的な赦しを感じられます。自分で気づいたなら、すぐに改めなければいけません。

また「施しを」して与えることを考えるなら、自分のための盗みはなくなるでしょう。生きる動機を変える必要があります。

ことばは特に大切です。ことばは人を「死にたい」という思いにもしますし、「生きよう」という励ましをも与えます。

すべては「神の聖霊」を悲しませるのではなく、喜ばせるということに集約されます。聖霊様は「親切」「優しさ」「赦しあう」ことを喜ばれます。まずは教会の中で率先して、自分自身がそのような者をなりましょう。そして神様に従わない人々にも聖霊様の愛で接しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

